

東日本大震災後の運動会

——学校の統廃合をめぐる教師、生徒、地域住民の「意志」の諸相——

*神谷 拓・**伊藤 嘉人・**玉腰 和典

An athletics meeting in the aftermath of the Great East Japan Earthquake:
Considering attitudes to school mergers and closures among teachers,
students and local inhabitants

KAMIYA Taku, ITO Yoshihito and TAMAKOSHI Kazunori

要 旨

本研究の目的は、東日本大震災後に開催された運動会のフィールドワークを通して、学校の統廃合をめぐる教師、生徒、地域住民の「意志」について明らかにすることである。対象としたのは、同震災によって甚大な被害を受けた、M県の沿岸部に位置するH市のNⅡ中学校で開催された「親子大運動会」である。調査の結果、この運動会において、教師、生徒、地域住民の「意志」は緩やかに繋がっていたものの、生徒たちの「統廃合を受け入れるまでには至っていない」という「意志」が、他の立場では共有されていないことが明らかになった。このことにより、本研究では「親子大運動会」が、教師、生徒、地域住民の「連帯と団結による意志表明」の場には「ならなかった」と結論づけた。とりわけ、27.3%の生徒が「私たちの意見も聞いて欲しかった」と述べていることから、日常生活における「意志表明の場」(子どもの意見表明権)を回復していくことが、今後の「親子大運動会」、及び、地域復興の課題になるだろう。

Key words：子どもの権利条約、子どもの意見表明権、学校行事、フィールドワーク

1. 本研究の目的

本研究の目的は、東日本大震災後に開催された運動会のフィールドワークを通して、学校の統廃合をめぐる教師、生徒、地域住民の「意志」について明らかにすることである。

以下ではまず、本研究の位置づけを明確にするために、震災後の体育実践に関わる研究動向について概観しておきたい。

まず、1995年1月17日に阪神・淡路大震災が発生したが、当時においては、仲島(1995)、浅野(1995)に

よる実践の紹介や、岸本(1997, 1999, 2000)による、教師に対する質問紙調査に基づく報告がある。これらの研究では、①震災後の学校体育施設や体育実践の実態、そして、②体力低下、食の偏重、PTSDなど、子どもの健康面に関する実態が報告されている。

そして、2011年3月11日には、東日本大震災が発生したが、これまでに、体育と防災教育の関係について考察した岸本(2012)の研究、及び、制野(2011, 2012a, b)や渡辺(2012)による体育や運動会の実践報告、さらに、それらの取り組みを解説する神谷(2011)、神谷・伊藤(2012)、玉腰・丸山(2012)、千

* 宮城教育大学保健体育講座
** 岐阜経済大学経営学部
*** 愛知県立大学大学院人間発達学研究科

葉（2012）の研究が見られる。阪神・淡路大震災後の研究動向と比べると、被災地の教師による実践報告と、教育現場の外にいる研究者による解説・分析が一体的に行われている点に特徴がある。そのことによって、被災地の教育実践が、より正確に、詳しく伝わることになったと言えよう。

本研究でも、これらの動向をふまえて、被災地の教育実践から遊離しない研究をめざしていくが、残念ながら筆者らは教育実践の当事者ではない。その点に本研究の限界がある。つまり、筆者らが語る言葉は、どれだけフィールドワークを重ねても、これまで教師が実践報告で語ってきたような「当事者の言葉」にはなり得ないのである。

しかし、そのような限界は、実際に教育現場に語られた言葉に注目することで、解決できる一面もある。すなわち、教育現場の人たちと可能な限り時間と空間を共有し、実際に教育現場で語られた言葉を、その文脈から外れないように解釈し、各言葉間の関連性、相違性を分析することで、教育現場に近い空気を保ちながら、研究を進めることは可能であると考えられる。そして、そのような視点から、これまでの研究動向を振り返ると、同様の研究が行われてこなかったことに気づく。教育現場の人たちと時間を共有するためにはフィールドワークが不可欠であるが、それに取り組む研究者もまた被災していることが多く、時間的、環境的な余裕がなかったことに起因しているのだろう。本研究は、そのような課題に取り組むものであり、この点にオリジナリティがある。

さて、本研究では、学校体育実践の中でも運動会に注目していくが、それは、周知の通り、学校で取り組まれる教科外活動である。現行の学習指導要領（中学校）においても、特別活動の中で「健康安全・体育的行事」として位置づけられており、「集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度」（特別活動の目標）、及び「協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度」（学校行事の目標）の育成が目ざされている（傍点、筆者。文部科学省、2008）。それぞれの目標では「生活」が共通のキーワードとなっているが、実際にそこで取り組まれる指導は「生活指導」とも呼ばれ、これまでに「子どもたちの自主的・集団的活動の指導を通して民主的人格の形成を図ることを主要な任務」としてき

た（柴田、2000）。さらに、教授学の観点で捉えれば、『陶治』は教科内容としての、人間の知識、認識、技能を形成する側面、『訓育』は教科外活動としての、意志、感動、行為、性格特性を育てる側面』の教育であるとされ、この2つの側面の教育が統一的に達成されたとき、はじめて、人間の全面発達の教育になると定義されている（傍点、筆者。吉本、1974）。

これらの指摘をふまえれば、運動会は子どもの民主的人格形成や全面発達に欠くことのできない「訓育」の場と言えるが、さらに城丸（1992）は、行事固有の特質にも注目する必要があることを指摘している。彼によれば、そもそも行事という言葉は、①決まった季節や期日に行われるものであること、②地域の全家庭が参加すること、③そのことによって住民としての意志を地域の内外に対して表明し、かつ、住民相互もその意味を確かめあうという性質をもっているという（傍点、筆者）。実際に、戦前はこのような行事の性質が利用され、「運動会や遠足なども、軍国の民としてのデモンストレーションという意味」をもっていた。そして、彼は「戦後の学校・学級行事のなかで、集団のどのような意志を子どもたちに表現させようとしているのでしょうか。子どもたちの民主的集団としての連帯と団結の表現、という性質を見失った学校・学級行事は、教育的には無意味な行事となるか、知らず知らず、軍国主義的行事に転落していくしかないように思われます」と警告する。その一方で、「一定の目的的な行動を通じて、連帯と団結を表現するということは、教師にとっても子どもにとっても、創造的な野心を育てるに十分なものがあります」と、その教育的意義を強調している。つまり彼は、「訓育」を目的とする教科外活動の中でも、学校行事が「意志」表明の場としての特質をもっている点に注目しているのである。

本研究では、この指摘をふまえ、運動会を生徒と教師の「連帯と団結による意志表明」の場として位置づけることにする。しかし、城丸の指摘には、補足が必要に思われる。結論を先に述べれば、運動会で「意志」を表明できる存在として、地域住民を加える必要がある。実際に、これまでの歴史を見れば明らかのように、運動会は地域社会と密接な関係を保ちつつ今日に至っている。そのような歴史的な経緯から、運動会の特徴が「全校生徒と教師、地域住民が一堂に会して行われる体育的行事の最大のもの」（傍点、筆者。久保、1988）

と解説されることもある。そして、地域の特性を生かした学校づくりは、地域との深い関わりの中で育まれるものであることを考えると、今後、子どもたちの活動と地域をつなぐ接点は、あらためてとらえ直される必要があるという指摘もある（飯田、2004）。そこで本研究では、城丸が指摘した「連帯と団結の意志」を表明する存在に、地域住民も含むことにする。

このような前提にたつたうえで、本研究では、東日本大震災（以下から、震災とする）後に開催された運動会において教師、生徒、地域住民によって表明された「意志」に注目していく。

2. フィールドの解説

本研究で対象としたのは、M県の沿岸部に位置するH市のNⅡ中学校（以下から、NⅡ中とする）で開催された「親子大運動会」である。この名称が示すように、この学校の運動会には地域住民も参加している。同校校長によれば、1993年に「体育祭」から「親子大運動会」に名称を変えて現在に至っているが、実際のプログラムを見ても地域住民が参加する競技・演技種目は、2011年度、2012年度ともに、全14種目中7つ用意されていた。そして、同校の創設年（1958年）から伝わるダンスで使われる衣装も、地域住民が制作してきた歴史がある¹。

このような地域住民の参加が成立している要因を知るうえで、この中学校創設当時の経緯が参考になる。NⅡ中は、近隣三村の合併に伴い、当時のN中とM中が統合して建てられた学校である。しかし、創設までには町を二分する話し合いがあった。学区の1つであったN地区は統合に前向きであったが、M地区は「通学距離が長くなる」等の理由から猛烈に反対していたのである。そして、当時の中学校の校長、町長、町議会議員、教育委員会、県議会議員等が調停に入るが解決せず、十分な賛同が得られぬまま、NⅡ中はスタートを切るようになった。結局、当初は新校舎を建てることができず、統合する前の校舎をそのままにして、一

方がNⅡ中「第一校舎」、もう一方がNⅡ中「第二校舎」となった。しかし、反対をしていた地域の生徒10名のうち6名が登校拒否となり、依然として対立は続いていた。実際にその後、M地区は分町請願書を町議会に提出し、町から独立した「自治村」を組織するとともに、公民館を利用した「自治中学校」を発足していく。このような深刻化した対立を解決すべく、最終的には県が調停に入り、「自治中学校で頼んだ講師四人に対する四月からの謝礼金を町費で負担すること」等の条件が汲み取られ、登校拒否を続けていた生徒も新中学校に通学することになり、解決に至った。この歴史が示すように、この地域の住民は、自分たちの望む学校ができないのならば、町から独立して新たな学校をつくってしまうほどの思い入れがあり、「学校は地域のものである」という意識が強い。震災後においても、間借りをしている学校で行われた入学式の後に、その場で地区の再建に向けた話し合いが行われたという²。このような事例からも、学校が地域にとってそれだけ身近な存在であることがうかがえよう。

一方で、そのような話し合いが必要なほど、この地域は崩壊の危機に直面したことも事実である。H市の震災前の人口は42,840人（2011年3月1日現在）であったが、震災後は39,995人（2012年8月1日現在）に減少している。市の報告によれば、1,088人の死亡者（このうち震災関連死61人を含む）、35人の行方不明者（安否未確認者）が出ている（2012年9月3日現在）。そして、NⅡ中に通う生徒のなかでも9名が両親を亡くしていた³。

生徒の自宅に関しても、約85%が津波の被害を受け、約70%が自宅を失っていた⁴。また、何らかの形で離職を余儀なくされた保護者は当初40%に上った。その影響もあり、2011年8月27日の時点では129名の生徒が在籍していたが、2012年8月25日の時点で104名まで減少している。なお、筆者らが2012年度に実施した、生徒に対する質問紙調査（巻末・資料2）では、現在も63.6%が震災前とは異なる住所から通学している⁵。そのため、通学にはバスが用意され、多くの生徒がそれ

1 後掲表1、ID19。

2 同上。なお、ここで話し合いを持ったのは、かつて新中学校の創設に賛成していたN地区の住民である。

3 後掲表1、ID12。

4 前掲1。

5 2012年8月29日に配布し、88人から回収した（回収率84.6%）。

を利用しているが、一方でそのことにより、放課後に活動できる時間は制約されていた。放課後のバスは、通常5時45分に一斉に出発してしまうため、それに間に合わせなければならないからである⁶。

なお、震災当日は卒業式があり、多くの生徒は下校していた。当時、学校に残っていた教職員と一部の生徒は校舎の2階に避難し、かろうじて助かっている。また、近隣の施設では、卒業式後に謝恩会が開催されていたが、そこにいた教職員、保護者、生徒も助かっている。しかし、既に下校していた生徒のうち3名が死亡した。

校舎の被害も深刻であった。学校が海岸から数百mの位置に建てられていたこともあり、津波によって校舎は1階の天井まで浸水した。破損もひどく、津波が引いた後には瓦礫と泥が残されていたため、近隣のN I 中学校（以下からN I 中とする）を間借りすることになり、それは現在も続いている。さらに、そのことにより、運動会の日程や準備に制約が生じていた。2011年度の運動会は8月27日に開催されたが、全体練習にあてられたのは8月22日～26日の5日間であった。さらに、2012年度（8月25日開催）は8月21日～24日の4日間に減少している⁷。2012年度に準備日程が減少しているのは、間借りをしてるN I 中の運動会が翌週に控えていたこと、また、N II 中の他の学校行事との兼ね合いから、開催日を同日にしか設定できなかったことに起因している。

最後になるが、2012年度に入り、現在同じ校舎で教育活動を行っているN I 中とN II 中を統廃合する予定であることが、教育委員会より報告された。そのため、教師の中には、統廃合の準備委員に任命され、夜遅くまで会議に参加している者もいた。また、地域住民にも教育委員会による説明会が行われていたが、先ほど述べたように、その多くは居住地を変更していたため、参加率は低調であり⁸、かつての統廃合の時のような活発な議論は行われていない。

しかし、学校の統廃合は、教師、生徒、地域住民にとって、これまでの生活空間の一部を失うことであり、

ぬきさしならない問題であった。そのため、そのトピックは2012年度の「親子大運動会」に少なからぬ影響を及ぼしていく。すなわち「親子大運動会」が、学校の統廃合をめぐる「意志の表明」の場として、成立していくことになるのである。

3. 調査方法

本研究で用いた調査方法は、①参与観察によるフィールドノートへの記述・分析、②VTRによる撮影・分析、③教師、生徒、地域住民へのインタビュー、及び運動会実行委員会⁹（以下から、実行委員会及びそこに参加する生徒を実行委員とする）の議論に関わるトランスクリプトの作成・分析、④教師・生徒に配布された資料の収集・分析、⑤学校や地域の歴史を記した『郷土史』の収集・分析、⑥「親子大運動会」に関わるテレビ放映の録画・分析、そして、⑦生徒への質問紙調査である。なお、インタビュー等の質的データの分析には、QDA（Qualitative Data Analysis）ソフトウェアMAXQDAを用いて、コーディングを行った（佐藤，2008）。

調査の対象としたのは、震災後に開催された2011年度と2012年度の「親子大運動会」であり、詳細な調査内容は表1に掲載している。実行委員会の話し合いの段階から参与観察を行い、同時に、教師へのインタビューを行った。そして、同様の作業を運動会の全体練習及び当日においても継続した。さらに、運動会后、実行委員会担当教師（以下から、担当教師とする）の確認・了解を得たうえで、生徒に質問紙調査を行った（巻末・資料1、2）。全ての生徒にインタビューを行うことは不可能であったため、質問紙調査の結果は、全生徒の「意志」の傾向や、生活実態等を知る上で参考にした。

地域住民へのインタビューは、「親子大運動会」当日に行っている。2011年度と2012年度の各地区における来場者は表2の通りである。この数字は、各地区毎に用意されたテント、及びその付近にいた人数を目視で

6 バスの時間帯は春・秋が5時45分頃、夏が6時または6時30分頃、冬が5時頃となっている。通学に1時間程かかる生徒もいるため、他校より早い時間設定になっている。

7 なお、両年度とも、準備日程のうち1日は、1～2時間目に学級活動と始業式が入っていたため、全ての時間を全体練習にあてられた訳ではない。

8 後掲表1、ID30。

9 なお、実行委員会は、各クラスから選出された実行委員2名と、生徒会の役員によって構成されている。

東日本大震災後の運動会

表1 「親子大運動会」調査の概要 (2011~2012年)

ID	年月日	調査対象	調査の方法	場所
1	2011年7月6日	職員会議	参与観察	職員室
2	2011年7月6日	第1回運動会実行委員会	参与観察	2年1組教室・職員室
3	2011年7月6日	実行委員会担当教師	インタビュー	職員室
4	2011年7月8日	第2回運動会実行委員会	参与観察	2年1組教室・職員室
5	2011年7月8日	実行委員会担当教師	インタビュー	職員室
6	2011年7月15日	第3回運動会実行委員会	参与観察	武道場(避難所を兼ねる)
7	2011年7月19日	第4回運動会実行委員会	参与観察	2年1組教室・職員室
8	2011年8月18日	第5回運動会実行委員会	参与観察	2年1組教室・職員室
9	2011年8月19日	第6回運動会実行委員会	参与観察	2年1組教室・職員室
10	2011年8月25日	運動会全体練習	参与観察	グラウンド、体育館、職員室
11	2011年8月25日	教師A	インタビュー	グラウンド
12	2011年8月25日	実行委員会担当教師	インタビュー	M県R市内ファミリーレストラン
13	2011年8月26日	運動会全体練習	参与観察	グラウンド、体育館、職員室
14	2011年8月26日	教師D	インタビュー	グラウンド
15	2011年8月26日	教師M	インタビュー	グラウンド
16	2011年8月26日	教師C	インタビュー	グラウンド
17	2011年8月26日	実行委員会担当教師	インタビュー	グラウンド
18	2011年8月26日	教師C	インタビュー	グラウンド
19	2011年8月26日	N II中校長	インタビュー	職員室
20	2011年8月27日	「親子大運動会」	参与観察	グラウンド
21	2011年8月27日	県外からの来場者	インタビュー	グラウンド
22	2011年8月27日	開会式の手伝いのボランティア	インタビュー	グラウンド
23	2011年8月27日	S町区長	インタビュー	グラウンド
24	2011年8月27日	M町区長	インタビュー	グラウンド
25	2011年8月27日	N小学校校長	インタビュー	グラウンド
26	2011年8月27日	地域住民(4人・うち2人は夫婦)	インタビュー	N I中校外・喫煙場
27	2011年8月27日	教頭	インタビュー	グラウンド
28	2011年8月29日	全校生徒	質問紙調査	各教室
29	2012年7月5日	職員会議	参与観察	校長室
30	2012年7月5日	実行委員会担当教師	インタビュー	校長室
31	2012年7月6日	第1回運動会実行委員会	参与観察	3年1組教室・職員室
32	2012年7月9日	第2回運動会実行委員会	参与観察	3年1組教室・職員室
33	2012年7月10日	第3回運動会実行委員会	参与観察	3年1組教室・職員室
34	2012年7月10日	実行委員会担当教師、教師A	インタビュー	職員室
35	2012年7月17日	第4回運動会実行委員会	参与観察	3年1組教室・職員室
36	2012年8月21日	運動会全体練習	参与観察	職員室・武道場・体育館
37	2012年8月21日	演技図説明会(職員会議)	参与観察	職員室
38	2012年8月21日	第5回運動会実行委員会	参与観察	3年1組教室・職員室
39	2012年8月22日	運動会全体練習	参与観察	職員室・武道場・体育館・グラウンド
40	2012年8月22日	実行委員長挨拶・「復興への決意」の指導	参与観察	3年1組教室・職員室
41	2012年8月23日	運動会全体練習	参与観察	職員室・体育館・グラウンド
42	2012年8月23日	教師A、B、C	インタビュー	職員室・グラウンド
43	2012年8月23日	第6回運動会実行委員会	参与観察	グラウンド
44	2012年8月23日	選手宣誓・「復興への決意」の指導	参与観察	グラウンド
45	2012年8月24日	運動会全体練習	参与観察	職員室・体育館・グラウンド
46	2012年8月25日	「親子大運動会」	参与観察	職員室・グラウンド
47	2012年8月25日	教師C、D、E、F、G、H、I、J、K、L	インタビュー	職員室・グラウンド
48	2012年8月25日	PTA会長	インタビュー	グラウンド
49	2012年8月25日	PTA役員	インタビュー	グラウンド
50	2012年8月25日	H市教育長	インタビュー	グラウンド
51	2012年8月25日	H市教育委員長	インタビュー	グラウンド
52	2012年8月25日	M小学校校長	インタビュー	グラウンド
53	2012年8月25日	N小学校校長	インタビュー	グラウンド
54	2012年8月25日	H市市議会議員S氏	インタビュー	グラウンド
55	2012年8月25日	H市市議会議員O氏	インタビュー	グラウンド
56	2012年8月25日	T町区長	インタビュー	グラウンド
57	2012年8月25日	K町区長	インタビュー	グラウンド
58	2012年8月25日	M町区長	インタビュー	グラウンド
59	2012年8月25日	O町区長	インタビュー	グラウンド
60	2012年8月25日	N町区長	インタビュー	グラウンド
61	2012年8月25日	60代男性A氏	インタビュー	グラウンド
62	2012年8月25日	N II中2回生	インタビュー	グラウンド
63	2012年8月25日	テレビ放映(NHK)	録画・分析	宮城教育大学研究室
64	2012年8月29日	運動会事後指導(質問紙配布・回収)	参与観察 質問紙調査	職員室・2年1組、2組、 3年1、2組教室
65	2012年8月29日	郷土史	資料収集	M県H市図書館

※上記施設は、全てN I中内にある。なお、2012年度においてはN I中内に、N II中の仮設校舎が建てられ、そこに職員室、校長室、教室の一部が移動している。

表2 来場者の変化(各地区テントの人数)

地区	8時30分頃		9時30分頃		10時30分頃		11時30分頃		12時30分頃		13時30分頃	
	2011年	2012年	2011年	2012年	2011年	2012年	2011年	2012年	2011年	2012年	2011年	2012年
A	未集計	4	13	19	13	13	35	17	未集計	18	17	15
N		8	13	19	10	24	19	21		25	12	20
O		12	25	16	9	17	48	15		20	22	10
M		10	36	34	38	35	62	36		40	40	30
K		10	39	20	40	29	36	25		45	13	15
SZ		0		9	11	11	28	14		11	14	9
SN		2	31	15	22	25	44	24		29	12	16
T		20	17	25	15	26	40	25		28	28	12
ST		15	42	29	31	26	42	26		45	34	16
計		81	216	186	189	206	354	203		261	192	143

確認したものであり、その場所にいなかった人は数に含まれていない。そのため、当日の来場者を最も低く見積もった人数として捉える必要がある¹⁰。地域住民に関しても、全てにインタビューを行うことは不可能であるため、来賓席に座っていた教育長、区長、議員、PTA役員、学区の小学校校長等を、地域住民の「意志」を代弁できるインフォーマンツ (informants) として位置づけ、彼らを中心にインタビューを行った。

なお、本調査は、大学教員と大学院生で構成された3名で行っている。具体的な役割分担としては、①実行委員会担当の教師、及び生徒担当、②地域住民担当、③教師担当(実行委員会担当以外)に分かれて調査を進めた。しかし、完全な分業という訳ではなく、それぞれの担当フィールドへの理解を深めるうえで、担当外のフィールドを共同で調査することもあった。各フィールドで得られた情報は、同日の調査終了後に共有・確認することで、次回の調査内容を定めていった。さらに、各年度の全調査終了後においても、それぞれの分析結果を報告し、質的データに関わるコーディングの妥当性及び分析方法について検討した。

4. 考察の方法

本研究では、以下のような手順で考察を進めていく。例年、「親子大運動会」は、実行委員会が決定したテーマに基づいて運営されている。それは実行委員会の「意志」とも言え、実際にプログラム全体に影響を及ぼしている。そのため、まず実行委員会のテーマが、どの

ようにプログラムに反映しているのかを解説する。さらに、そのテーマが担当教師の「意志」に基づいて指導されていること、そして、その「意志」が浸透していく過程を示す。

次に、教師、生徒、地域住民の「意志」の分析へと進むが、ここでは共通の分析方法を用いている。まず、各立場の代表によって述べられた「意志」が、震災後の2011年度と統廃合を控えた2012年度において、どのように変化しているのかに注目する。具体的には、生徒を代表する立場の「意志」として、開会式における実行委員長挨拶と、閉会式における「復興への決意」、教師を代表するものとして開会式における校長の挨拶、地域を代表するものとして教育長とPTA会長の挨拶に注目する。さらに、インタビューや質問紙調査で明らかになった、代表者以外の「意志」との比較を行い、各代表が語った内容が、背後に存在する人たちの「意志」から何を取捨選択していたのかを明らかにする。

そして、最終的には各章の分析をふまえて、学校の統廃合をめぐる「意志」の諸相を整理し、「親子大運動会」が「連帯と団結による意志表明」の場として成立していたのかを検討する。

5. 運動会のテーマと実行委員会の指導

5.1 テーマとプログラムの関係

例年、NII中では、生徒によって発足された実行委員会が「親子大運動会」のテーマを決定している。そして、このテーマに基づいて開会式、閉会式、及び、

10 なお、2011年度の11:30頃、及び2012年度の12:30頃の集計は、食事の時間と重なっているため、生徒を含めた人数である。

表3 実行委員会担当教師の設定した「ねらい」と実行委員会で決定されたテーマ

実行委員会担当教師の設定した「ねらい」		実行委員会で決定されたテーマ
2011年度	(1) 運動会を人間・学校・地域の復興の場と位置づけ、そのための企画を立案する。	Let's run ～走れば見える復興というゴール～
	(2) 生徒の自治と共同の力を最大限発揮させ、地域再生力の根を耕す。	
	(3) 離れ離れになっている地域の方々の再会の場とし、地域再興のエネルギーを復活させる。	
2012年度	(1) 学校と地域の方々の共同・協同の場とし、地域復興への決意と団結を示す祭典とする。	5347人の軌跡 ～生徒は地域のために、地域は未来のために～
	(2) 全生徒の無限の可能性を追求する場とし、地域再生のための自治能力を育成する場とする。	
	(3) 新しい校風づくりと伝統を守り育てる場とし、新たな挑戦に取り組む行事とする。	

競技・演技種目の内容が決められることになる。例えば、開会式では聖火リレーを実施しているが、2011年度はNⅡ中校長→PTA会長→NⅠ中校長→H市市長→H市教育委員長→S氏（震災後、避難所運営でリーダーだった人）→S町区長→生徒会長というように、学校再開に向けた協力者がランナーに含まれている。2012年度においては、NⅡ中校長→NⅡ中第1期卒業生→第2期卒業生→第2期卒業生→第6期卒業生→第8期卒業生→第24期卒業生→生徒会長というように、これまでの卒業生を中心につないだ。

このような変化は、運動会のテーマと密接に関わっている。2011年度に実行委員会が設定したテーマは、「Let's run～走れば見える復興というゴール～」（表3・右上）であり、それには「地域を勇気づける、信頼し合い、力を合わせるなど、たくさんの思いが込められていた（2011年度実行委員長挨拶）。すなわち、学校再開に向けた協力者を中心に聖火をつなぐというのは、このような運動会のテーマで示された「意志」が具体的に表明されたものなのである。

2012年度においては、テーマが「5347人の軌跡～生徒は地域のために、地域は未来のために～」（表3・右下）と設定されたが、それには「卒業生と在校生が築き上げてきたNⅡ中の伝統と誇りを未来につなげていきたいという思いが込められていた（2012年度実行委員長挨拶）。同年の卒業生を中心にした聖火リレーもまた、このテーマで示された「意志」の表明と言える。

このように、実行委員会が設定するテーマは、「親子大運動会」全体を貫く「意志」となるため、例年、議論には多くの時間が割かれている。

5.2 実行委員会担当教師の「意志」とテーマの関係

テーマの設定に至るまで、実行委員会の指導を担当するのは、この学校の唯一の保健体育教師である。具体的には、担当教師が設定した教育目標である、「ねらい」（表3・左）に基づいて指導が進められていく。例年、その内容は、第1回目の実行委員会が開催される前に、職員会議において報告されている。なお、筆者が参与観察をした2年間において、それが否定されたり、修正されることはなかった。校長も、担当教師のたてた方針に賛同し、他の教師も会議の場で異論を挟むことはなかった。

このことから、担当教師の立てた「ねらい」は、一定の説得力を持って、教師集団に共有されていたことがうかがえる。その背景には、担当教師が、幼少期から現在のNⅠ中、NⅡ中がある地域の隣町に住んでいたため、H市の生活環境や地域の課題について理解が深かったことがある。そして、体育授業、体育行事、運動部活動、学級づくりの指導において、常に生徒が抱えている生活課題にまで視野を広げて計画を立案し、自らの実践の評価にも取り組んできた。その一端は実践記録として執筆され、筆者らが確認しただけでも、体育専門雑誌において合計59本、自身の所属する民間教育研究団体の仲間とともに書籍化されたものが7冊あった。このような経歴と教育実践歴から導かれた「ねらい」は、「親子大運動会」だけに止まらない、同教師の教育実践全体を貫く「意志」でもあった。そして、そのような重みがあったために、教師集団の間で一定の説得力を持ちえたのであろう。

さらに、担当教師の設定した「ねらい」は、前節で

ふれた実行委員会で設定されたテーマ、及び、各年度のプログラムにも影響を及ぼしている。例えば、2011年度に設定した「ねらい」(3)には、「離れ離れになっている地域の方々の再会の場とし、地域再興のエネルギーを復活させる」とあるが、先ほど述べたように、同年の聖火リレーには被災した地域住民が含まれていた。そして、翌年度においては、教育委員会により学校の統廃合の報告があったことから、「ねらい」の(3)に「新しい校風」「伝統」といった言葉が加わっている。それに伴い、実行委員会では「5347人の軌跡～生徒は地域のために、地域は未来のために～」というテーマが設定され、卒業生を中心に聖火リレーが行われていた。また、2012年度においては、「ねらい」(1)に「祭典」という言葉が加わっているが、同年の運動会では、前年度にはなかった御神輿が用意され、応援合戦の前に生徒たちが担ぐようになった。

これらの事例が示すように、担当教師が事前に設定した「ねらい」及び、その変化は、実行委員会のテーマ設定に影響を及ぼし、さらにプログラム全体にも波及するほどの影響力をもっている。

5.3 テーマに関わる指導の過程

このように、担当教師が事前に設定した「ねらい」のもつ意味は大きい。1で述べたように体育行事は、生徒の主体的・自治的な活動を目的とする教科外活動である。そのため、一般的な授業のように、担当教師から運動会のテーマを「教授」するのではなく、生徒たちによる議論を通して、彼らの「意志」としてまとめていく必要がある。実際に、筆者が参与観察をした2年間において、担当教師の設定した「ねらい」が、そのまま生徒たちに明示されることは無かった。

以下では、担当教師の「ねらい」が、実行委員会の指導を通して、どのようにテーマに汲み取られていくのかに注目していく。先に、その指導過程の特徴を述べれば、①テーマに関わる説明をし、②「何のために運動会をするのか」という「意味を問う」指導を繰り返す、③イメージがわからないようであれば、具体例を通して教師が設定した「ねらい」に気づかせ、④それを生徒たちの言葉で表現させていく（状況に応じてアンケートを行う）という段階を往來しながら、テーマの決定に至っている。その過程を整理したのが表4である。

①テーマに関わる説明をする場面では、まず、テーマを自分たちで決定する必要があることが述べられている。そして、自己紹介の中で生徒から語られた内容や、担当教師の「ねらい」に基づいて、学校や地域の課題が話されている。例えば、2011年度においては、自己紹介で「最近のNⅡは暗い」と述べられたことを受けて、「その暗さをね、どうやって打ち払うのか、これはね『ねらい』(実行委員会のテーマ、筆者)にかかっていると思います」と説明をしていた。2012年度においては、第1回、第2回の実行委員会で出されたテーマが漠然とした内容だったことを受けて、第3回実行委員会においてプリントを配布している。その中では、テーマはイメージしやすいものでなければならない、統廃合という現実と向き合う、自分たちの思いをこめる、「運動会の開始時点でテーマの元に全校が集結し、終了時にはテーマの元に新たな決意を抱けるものにならないなければならない」等の説明が行われていた。

次に、②「何のために運動会をするのか」という「意味を問う」指導であるが、ここでは、例年、生徒から「団結力」「結束力」といった言葉が挙げられる。それに対して、「なぜ、団結する必要があるのか」「何のために団結するのか」といった質問を繰り返し投げかけ、他の言葉に関しても同様の指導が行われる。人は何か課題があるから団結するのであり、それに気づかせようとしているのである。

そして、③イメージがわからないようであれば、具体例を通して、担当教師が設定した「ねらい」に気づかせていく。2011年度においては、生徒から出てきた「親との交流を深める」という意見に対して、他にどのような人が来るのかをたずね、生徒の中から来場者の例を挙げさせていた。そのことによって、テーマに「地域」を含む必要があることに気づかせようとしているのである。2012年度においても、生徒から出てきた、御神輿を運動会に登場させるという意見に対して、「なぜ御輿を担ぐのか」という問いかけが行われた。このやりとりの中でも、生徒に祭りや御神輿を担ぐ場面をイメージさせ、それらの行動の背景には人々の期待・願望があること、そして、「親子大運動会」においても同様の期待・願望が寄せられていることに気づかせようとしていた。

このような議論を経て、最終段階において、④生徒たちの言葉でテーマを表現させていくことになる。

表4 テーマの設定に至るまでの指導過程

	2011年度	2012年度
説明をする	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで、ねらいをたててみてください。 その暗さをね、どうやって打ち払うのか、これはね、「ねらい」にかかっていると思います。 どうい運動会を自分たちでつくるのか？ということです。 先生達は、先生達で目標はあります。が、これはあくまでも先生達の目標なので、今日は、その「ねらい」のところをきちんとみんなで話し合ってもらおう。 運動会ってどういう場なのか、どういう意味があるのかということ、最初にきちっと話し合っって…。 	<ul style="list-style-type: none"> 今からテーマとか、狙いをね、決めていって欲しいなあって思います。 <2012年7月10日 第3回実行委員会・配布プリント> ①テーマが抽象的すぎないか。地域の方が見てイメージしやすい運動会か。テーマが生徒・教員・保護者はもちろん地域の方々や老人が見てもすぐにわかるもの、理解しやすいテーマとなっているかが大事。震災後の「復興」と学校の「統廃合」という厳しい現実の中でNⅡ中がしなければならないことは何か。震災の影響はまだまだ続く。40年の歴史に幕を下ろすという悲しい現実を直視し、それでも地域のつながりを決して失わないための努力を中学生なりにしてほしい。 ②何よりも自分たちの思いが詰まったテーマになっているか。運動会のねらいが伝わるテーマになっているか。前回決めたテーマは自分たちの思いや運動会のねらいが伝わるものになっているだろうか。もう一度吟味して欲しい。「たかがテーマ、されどテーマ」である。全校・全地域（地区）が一丸となって運動会を成功させようという思いに駆られるだろうか。NⅡ中の魂の叫び、心の奥にある願いが伝わるものでなければただの「スローガン」で終わってしまう。運動会の開始時点でテーマの元に全校が結集し、終了時にはテーマの元に新たな決意を抱けるものにならない。そういう意味でテーマの再検討を提案します。
意味を問う	<ul style="list-style-type: none"> なんで、この状況で運動会をやるのか？ 何のために団結するのか？ ほっかり穴が空いたのをどうしたいのか？ 暗い気持ちから明るい気持ちに、どうするの？ さっきもちょっと言っただけ、2年生からね、団結力を高めるって出たんだけど、なんで団結力を高めなければならないのか。 団結を高めるといのはどういうことなのか？ それは、何のために？ みんなのために？ NⅡのため？ 団結力を高めるって言うのはどういうことかというの、あそこに書いてあるよ。信頼し合い、力を合わせるって書いてあるけど。じゃあ、何のために団結力って必要なの？特に、今のNⅡにとって、団結力を高めるって言うのは、なぜ必要なの？ 	<ul style="list-style-type: none"> 何のためにやるの？ 何のために運動会ってやるの？ なぜ団結力とか結束力とかを高めるの？ 学校が集団だっていうのはわかるよね。だけど、集団を高めるって言うのはどういうことなの？ 学校として、集団の力をつけていくとか、あるいは、人間は1人で生きられないことを確かめるために、もし運動会をやるのであれば、どんな運動会をしたいの、あなたたちは？もし、そういう目的があるとするならば、どういう運動会にしたい？自分の思いはどんなの？ あんなだったら、どういう思いをもって運動会に参加する？ どうい思いをぶつけますか？ 何を求めて来るの？来る人は？
例示する	<ul style="list-style-type: none"> えーと親との交流を深めるってあるんですが、実際は親だけではないですよ。来るのはね。どうい人来るの？→地域の人→地域の人たちが来るよね。後は？→家族→家族、うん。後は？→親戚→親戚、はい。後は？→恋人→えっ恋人？そういう人たち。先輩たちも来るでしょ。OBも来るよね。だから、そういうことを考えると、親との交流だけだと、やっぱり狭いような感じが先生はします。ね。そこら辺をもうちょっと深く、掘り下げて欲しいなあって思います。 小学校で経験していると思うけど…(1年生に対して) 	<ul style="list-style-type: none"> ねっ去年のテーマ見てごらん。 なぜ、御神輿を思いついたの？→御神輿の時に、色んな人が集まってくる訳でしょ。で、それをみんなで担ぐわけだ。それは何故だと思っ？→例えばさ、軽い御神輿だったらさ、何人集まればいい？→もし、1人で担げる御神輿だったら、人、集まる？→つまり、人を集めるための一つの細工かもしれないわけ。昔の人の知恵っていか→それから、御神輿とセットなのは何か？→お祭りって何なの？→神様をみんなで担いで、何を願うの？→だから、御神輿を担ぐとか、神様を担ぐって言うのは、いろんな思いがそこに込められて、しかも、たった1人で担ぐような御神輿なんて全国に無いわけだよ。必ず、そこに、いろんな人達が寄せ集まるような、そういう、細工をさ、昔の人はしているわけ。 あんなたち、お祭りとか、御神輿担ぐってなると、何となく、こうワクワクしない？それはなぜなの？→そこに人が一杯集まってくるって事が、何となく胸騒ぎがしたわけさ。今だってそうでしょ→もうちょっと、Y辺りが何を考えて御神輿っていったのかね、そこをもうちょっとこう掘り下げてさ、今みたいに、ね、みんなで何かを作るとか、みんなで何かを担ぐって言うことの意味だよ。
子ども達の言葉で表現させる	<ul style="list-style-type: none"> 3つぐらいなくても良いですよ。一つでも良いから。きっちりと。 <実行委員会実施アンケート> 平成23年度運動会のテーマについてアンケートを取ります。NⅡを活気づけられ地域を勇気づけるような運動会のテーマを考えてください。 ※テーマ※ ※理由※ 	<ul style="list-style-type: none"> 何か、いいキーワードないですか？ もうちょっと、いろんな言葉を、こう、組み合わせせてみて、自分たちで紡ぎ出すような形でないと…。 「笑顔」って何となく、軽くない？ 「生徒は地域のために…」どう、もうちょい何か変えられる？ ちょっと、全体の印象どう？みんなの？ 堅くないか？ 「40年の軌跡」っていうと、なんかちょっと… 学校の名前とか地域の名前が入ると、何かダメなんだよな。だってNⅡの運動会っていうのはわかって来るわけだから。 「軌跡」はいいと思うよ。 ただ、すごくヒントはあるよね、「生徒は地域のために」。

2011年度においては、この場面のやりとりがあまり見られない。それは、実行委員会の話し合いの過程で、全校生徒にアンケートをとって、テーマのヒントを得ることになったからである。しかし、実行委員会が作成したアンケートには、「NⅡを活気づけられ地域を勇気づけるような運動会のテーマを考えてください」と書かれており、この段階までに「NⅡを活気づける」

「地域を勇気づける」というキーワードにまで絞られていた。2012年度においてはアンケートが実施されず、教師は実行委員会で挙げられたキーワードに対して「軽くないか？」「堅くないか？」「学校の名前とか地域の名前が入ると、何かダメなんだよな」「(生徒から挙げられた意見に対して、筆者)ただ、すごくヒントはあるよね」というように、コメントや助言を加えながら、

具体的なテーマへと導いていた。担当教師の設定した「ねらい」と結びつくようなキーワードを、生徒と共に議論しているのである。

このようにして、担当教師の「意志」である「ねらい」は、実行委員会のテーマ設定に影響を及ぼし、「親子大運動会」のプログラムへと浸透していくことになるのである。別の言い方をすれば、担当教師の「意志」は、生徒たちの議論を経て、間接的に実行委員会のテーマで表明されることで、「親子大運動会」の骨格となっていくのである。

5.4 実行委員会担当教師の統廃合に関わる「意志」

最後に、実行委員会担当教師の統廃合に関わる「意志」について確認しておきたい。結論を先に述べれば、当初は、統廃合に反対する立場であったが、実行委員会の指導の際には、統廃合を前提にして「ねらい」を設定している。

彼は、学校の統廃合について議論する、住民説明会にオブザーバーとして参加し、「向こう（前の学校、筆者）を離れて来た立場からすると、このままなし崩しに統廃合だと言われても納得できない」「子どもたちも納得できない」と述べ、「反対」の「意志」を表明していたが、結局、それは教育委員会に受け入れられなかった。このような状況で、この地区の教師として、統廃合を前提とした話し合いにも参加せざるを得ず、そのことにストレスを感じていた。彼は、その心境を以下のように語っている。「これが復興かっていう感じですよ」「もう、これに（統合準備スケジュールに、筆者）俺たちが乗っかっていだけなんですよ」¹¹

しかし、「親子大運動会」は間近に迫っており、このような「反対」の「意志」を飲み込んだうえで「ねらい」をたてねばならなかった。第1回実行委員会の前日に開催された職員会議においては、学校の統廃合を前提にして、今回の運動会が「学校を閉じるっていうことに向けての運動会という側面」と「来年に向けて何を伝統として残すのかという側面」があることを解説し、「祭り」のニュアンスを組み込んだ行事にしたいと提案していた¹²。また、実際にたてられた「ねらい」

を見ても、前年度にはなかった「新しい校風づくりと伝統を守り育てる」という言葉が加わっており（表3）、これも統廃合を前提にしたものとして見ることができる。

当然のことながら、それは実際の指導場面にも反映していくことになった。実行委員会に対するテーマの説明でも、「NⅡ中、単独としての運動会ってというのは、おそらく今回、最後になる」ことを解説し、プログラムの内容を検討する際にも、「やっぱり、こう、最後の運動会になるかもしれないってことを考えたときに、…略…何かできること無いか」と述べている¹³。また、実行委員長挨拶にも「やっぱり、最後の運動会を閉めるにあたってね、実行委員長がどんなメッセージで運動会をやるのかっていうことを、やっぱりメッセージ性をもって、相手に伝えて下さい」と要求していた¹⁴。

このように、実行委員会を担当する立場として、心底にある統廃合「反対」の「意志」を表明せず、それを受け入れる前提で「ねらい」をたて、指導に取り組んでいたのである。そして、後述するように、このような統廃合を受け入れる「意志」は、教師集団で共有されていたものでもあった。

6. 生徒代表が語った「意志」と実際に共有されていた「意志」

6.1 実行委員長挨拶と「復興への決意」

例年、「親子大運動会」の開会式では、実行委員長挨拶が行われている。そして震災後は、閉会式の中で、生徒が「復興への決意」を述べる場が設けられるようになった。2011年度と2012年度の内容を整理したのが表5であり、各年度で共通する内容及び、年度間に相違が見られる内容に、アンダーラインを引いている。

2011年度における2つの挨拶の共通性を端的に述べれば、「未来志向」と表現できるだろう。実行委員長挨拶でテーマの解説をする場面では、「地域を勇気づける、信頼し合い、力を合わせるなど、たくさんの思いが込められています。地域再生の狼煙を上げる行事にしよ

11 表1、ID30。

12 表1、ID29。

13 表1、ID31。

14 表1、ID35。

表5 実行委員長挨拶と「復興への決意」の内容

	2011年度	2012年度
実行委員長挨拶 (開会式)	<p>会場の皆様、本日はNⅡ中、親子大運動会にお集まりいただき、ありがとうございます。僕たちから、かけがえのない仲間や家族を奪っていった東日本大震災。この先、どうなるかわからない状況だった私たちも、今日、こうして親子大運動会を迎えることができ、心から嬉しく思います。今年の運動会テーマは、レッツラン～走れば見える復興というゴール～です。このテーマには、地域を勇気づける、信頼し合い、力を合わせるなど、たくさんの思いが込められています。地域再生の狼煙を上げる行事にしよう、実行委員、生徒、先生方全員が、精一杯、準備に取り組んできました(①)。準備期間も不十分でしたが、1人1人がベストをつくして、このつないだ命を燃やしましょう。そして、M君、W君、O君の分まで存分に力を発揮しましょう。最後に、この運動会が、地域復興の大きな一歩になるように、みんなで歴史に残る運動会をつくりましょう。</p>	<p>会場の皆様、本日はNⅡ中学校、親子大運動会にお集まりいただき、ありがとうございます。僕たちから、かけがえのない仲間や家族を奪っていった、東日本大震災から約1年6ヶ月がたとうとしている今、こうして伝統の親子大運動会を迎えることができ、心から嬉しく思います。しかし、今年でNⅡ中として最後の運動会になるというのは、とても悲しいです(③)。僕たちは震災前、海や松原に囲まれた校舎で、1年間過ごしました(②)。現在の校舎を借りて学校が再開できたのは嬉しいのですが、それと同時に、NⅡ中の校舎で3年間過ごせなかったというのは(②)、とても悔しいです(④)。今年の運動会テーマは、5347人の軌跡、生徒は地域のために、地域は未来のためにです。このテーマには、卒業生と在校生が築き上げてきたNⅡ中の伝統と誇りを未来につなげていきたいという思いが込められています(①)。この思いを胸に、実行委員、生徒、先生方全員が、精一杯、準備や練習に取り組んできました。今日は、一人一人、ベストをつくし、みんなの思い出に深く残るような運動会にしましょう。</p>
復興への決意 (閉会式)	<p>僕がこの運動会で、みんなのことが一つになっていることです。バトンや、リレーでバトンをつなぐ、やぐらをつくる、…ことはチームで1つになっていないとできないことだと思います。練習も実行委員会の人達が、頑張ってくれていたと思います。…誰よりも声を出し、…らしい姿勢で、僕たちを引っ張ってってくれました。来年は、僕たちが3年生になります。その時は、今年以上、さらに、すばらしい運動会がつかれるように頑張りたいです。最後に、震災で無くなった友達のために、今僕達ができることは、頑張って生きて、天国にいる友達に、…生きることだと思います。全国の皆さんからのご支援があったからだと思うので、みんなへの感謝を忘れずに、これからの生活も頑張っていきたいです。これで発表を終わります。(一部、録音不鮮明)</p>	<p>NⅡ中、最後の運動会も、いよいよ終わりが近づいてきました。今年の運動会テーマ「5347人の軌跡」の通り、昭和33年の開校以来、54年間、NⅡ中はこんなにとくさんの生徒の学舎として、○○ダンスや民踊踊り等の伝統を築き上げてきました(①、②)。しかし、残り7ヶ月で、55年の歴史に幕を閉じなければなりません(②)。私たち、1、2年生は、NⅡ中生として、あの松林に囲まれた校舎に、一度も足を踏み入れることなく、閉校してしまうことにショックを受けました(②)。先輩方の慣れ親しんだ校歌や、NⅡ中の象徴である松葉と波を表した校章が、私たちが途切れてしまうことに、寂しさと悔しさがこみ上げてきます(②、③、④)。私は、生まれ育った、あの町と風景が大好きです。いつの日か、また、あの思い出の風景を取り戻し、さらに美しい町に戻せるよう(②)、精一杯頑張ります。私は、まず、あの松林を元に戻すために(②)、松の苗を植える運動を、新しい中学校でも呼びかけていきます。そして、地域の皆さんとともに、復興への道を歩んでいきたいです。これが、私の復興への決意です。</p>

※表中の番号は、①運動会のテーマについて解説、②過去や学校への郷愁、③悲しさ、④悔しさに関わる記述を示している。

うと、実行委員、生徒、先生方全員が、精一杯、準備に取り組んできました」というように、地域の未来との関係で運動会が語られている。同様に、「復興への決意」でも「今年以上、さらに、すばらしい運動会がつかれるように頑張りたいです」と、来年の運動会に向けた希望や目標が述べられていた。

そして、それぞれの場において震災で亡くなった「仲間への弔い」が語られているが、それも「未来志向」の「意志」によって完結している。具体的には「1人1人がベストをつくして、このつないだ命を燃やしましょう。そして、M君、W君、O君の分まで存分に力を発揮しましょう」(実行委員長挨拶)、「僕たちができることは、頑張って生きて、天国にいる友だちに、…生きることだと思います」(「復興への決意」)というように、これから「自分たちが頑張ること」や「精一杯生きること」が、亡くなった友達の供養になると述べ

られているのである。

一方で、2012年度に行われた2つの挨拶には、①運動会のテーマについて解説、②過去や学校への郷愁、③悲しさ、④悔しさという共通性がある。とりわけ、②～④の視点は、前年度に見られない特徴と言える。具体的には、「今年でNⅡ中として最後の運動会になるというのは、とても悲しいです。僕たちは震災前、海や松原に囲まれた校舎で、1年間過ごしました。現在の校舎を借りて学校が再開できたのは嬉しいのですが、それと同時に、NⅡ中の校舎で3年間過ごせなかったというのは、とても悔しいです」(実行委員長挨拶)、「先輩方の慣れ親しんだ校歌や、NⅡ中の象徴である松葉と波を表した校章が、私たちが途切れてしまうことに、寂しさと悔しさがこみ上げてきます」(「復興への決意」)と述べられ、「過去や学校への郷愁」と「悲しさ・悔しさ」が同時に語られているのである。

なお、2011年度と同様に、2012年度においても、実行委員長挨拶で「未来につなげていきたい」と述べられ、「復興への決意」でも「精一杯頑張る」「新しい学校でも呼びかけていく」と「未来志向」の言葉が語れているが、その前提にあるのは「卒業生と在校生が築き上げてきたNⅡ中の伝統と誇り」(実行委員長挨拶)、あるいは「あの思い出の風景を取り戻す」「あの松林を元に戻す」(復興への決意)という、「過去や学校への郷愁」であるため、前年度と同様には位置づけられないだろう。

いずれにしても、「仲間への弔い」までを「未来志向」で解決しようとした生徒たちが、僅か1年後に「過去や学校への郷愁」「悲しさ・悔しさ」といった表現方法で、現状の「意志」を語るようになった背景には、学校の統廃合という現実がある。それは、生徒の「意志」を転換させるほどの、大きな問題であったと捉えることができよう。そして、そのような現実をふまえて設定された担当教師の「ねらい」や実行委員会のテーマが、これら代表者の「意志」に影響を及ぼしたと見ることもできるだろう。

6.2 生徒間で共有されていた「意志」

実行委員長挨拶や「復興への決意」は、生徒の代表によって語られる言葉であり、生徒間で共有されていた「意志」を代弁する意味を持つ。しかし、語りきれなかった「意志」があった可能性も否定できない。そのため、2012年度においては全校生徒の「意志」の傾向を知るために、質問紙調査を実施した(巻末・資料2)。

学校の統廃合に対する自分の立場をたずねた質問では「賛成である」が5.7%であり、「賛成とも反対とも言えない」(48.9%)と「反対である」(45.5%)がほぼ同数であった。このように、多くの生徒は学校の統廃合を受け入れるまでには至っていない。このような傾向と、2012年度の実行委員長挨拶や「復興への決意」で語られた「過去や学校への郷愁」との間には、共通性が見いだせよう。また、5における考察との兼ね合いで言えば、担当教師は統廃合を受け入れる前提で「ねらい」を設定していたが、生徒たちはそのような「意

表6 統廃合に対する心境

I中とII中の統合(統廃合)について、あなたの気持ちを以下から選んで下さい(2つ以上に○をつけても良いです)

回答	%
1. 楽しみである	8.0%
2. 不安である	34.1%
3. しょうがない事だと思う	40.9%
4. 私たちの意見を聞いてほしかった	27.3%
5. 嬉しい	3.4%
6. くやしい	27.3%
7. 悲しい	42.0%

表7 統廃合を受け入れるまでには至っていない立場の「意志」

回答	賛成とも反対とも言えない	反対
不安である	34.9%	37.5%
しょうがない事だと思う	53.5%	22.5%
私たちの意見を聞いてほしかった	14.0%	45.0%

志」には至っていなかったと言える。

次に、学校の統廃合に関わる自分の気持ちについてたずねた質問(表6)では、実行委員長挨拶や「復興への決意」で語られた「悲しい」という「意志」は42%、「くやしい」も27.3%であった。つまり、各代表者によって語られた内容は、これらの生徒の「意志」を代弁するものであったと言える。また、別の見方をすれば、「悲しい」「不安である」「くやしい」という否定的な感情に対する回答が多く、「楽しみ」「嬉しい」といった肯定的な感情は少ない。この点に関しても、代表者によって語られた「意志」との間に共通性が見いだせよう¹⁵。

ここで注目すべきは、実行委員長挨拶及び「復興への決意」で語られた「くやしい」(27.3%)と同等か、それ以上の生徒に共有されていたものに、「不安である」「しょうがない事だと思う」「私たちの意見を聞いて欲しかった」という「意志」があったことである。なお、これらの「意志」に関しては、統廃合を受け入れるまでには至っていない立場内においても、相違が見られる(表7)。具体的には、「不安である」に関しては差が見られないものの、「賛成とも反対とも言えない」の

15 なお、自由記述欄から、本文中の否定的な感情に関わる理由を取り上げると、①学校が無くなること(名前が無くなること)が悲しい、不安である、くやしい)、②震災の影響でなくなること、③NⅡの文化や伝統がなくなること、④人間関係に関わることが見られる。反対に肯定的な感情に関わる理由を取り上げると、①地域の復興につながること(がうれしい)、②クラス、人数、友達が増えること、③学べる場があること等がある。

立場においては、「しょうがない事だと思う」と回答する者が多く、「反対」の立場では「私たちの意見を聞いてほしかった」という回答が多い。「しょうがない」という言葉には、「施すべき手がない。始末におえない」という意味があるが（広辞苑）、これは「私たちの意見を聞いてほしかった」という、施すべき手を検討する「意志」とは対極にあることは言うまでもないだろう。

実際に、自由記述欄に注目すると、「ぼくたちの意見も聞いてほしかった。何か他に道があったかもしれないのにと思った」と記述した生徒もいた。その他を見ても、検討すべき内容（新しい学校名への不満）や、早急に結論を出す事への疑問があった。一方で、「しょうがない」の回答に関わるものには、①震災で早まっただけだから（しょうがない）、②人数が少ないから、③もう決まったことだからという意見が挙げられており、ここでは、現実を受け入れる姿勢が見受けられる。しかし、先ほど述べたように、「しょうがない」と感

じている生徒も、統廃合を受け入れるまでには至っていないのが現実である。そして、生徒の代表者による挨拶でも、「しょうがない」ことだけ「受け入れるまでには至っていない」、「私たちの意見を聞いていないから反対」といった「意志」が、直接的には語られなかった。だが、質問紙調査の結果に基づけば、それらの「意志」は、実際に語られた「意志」と同等か、それ以上の生徒の間で共有されていた本音であった。

7. 地域住民の代表が語った「意志」と実際に共有されていた「意志」

7.1 教育長とPTA会長の挨拶

「親子大運動会」において、地域住民の代表が「意志」を語る場に、教育長とPTA会長の挨拶がある。その内容を整理したのが表8であり、6.1の生徒代表の挨拶と同様に、年度間で共通する内容にアンダーラインを

表8 教育長挨拶とPTA会長挨拶の内容

	2011年度	2012年度
教育長挨拶	<p>恒例のNⅡ中学校の親子大運動会が、すばらしい、運動会日和に恵まれ、開催できますこと、大変おめでとうございます。震災の影響でNⅠ中の開催ということで、慣れない場所で開催で心配しておりました。しかしながら、先ほどの力強い入場行進そしてやる気に満ちたみなさんの元気な姿を拝見し、安心しております。震災発生から間もなく6か月が経過します。復旧・復興に向け前進していますが、この日本という国が明治の維新、戦後の復興そして、今回の大震災の復興は、かなうかどうかみなさん子どもたちの元気がかかっていると、言った方がおります。私は、毎年この運動会にお招きいただき、みなさんの最後まで頑張るひたむきな姿にいつも勇氣と元気をいただいております。今年もまた生きる人々に感動を与え、そして、皆様にとって生涯忘れることのない、素晴らしい運動会にしてください。みなさんの元気があれば、必ずこの国は復興できます。頑張ってください。</p>	<p>みなさんの入場行進の姿、今そこに立っている顔つき、姿勢、大変感動して見ておりました。NⅡ中学校として最後の運動会を立派にやり遂げようとする、その気持ちが伝わってまいりました。ほんとに素晴らしいNⅡ中学校の子どもたち、生徒だと思います。学校の復興、復旧・復興は、地域の希望でございます。そして、その希望の姿を現すのが皆様の姿勢です。どうぞ最後の運動会、最後までしっかりがんばってください。みんなが応援しております。今日の親子運動会、本当におめでとうございます。おわります。</p>
PTA会長挨拶	<p>みなさんおはようございます。今日はみなさんのですね、待ちに待ったですね、これまで練習を重ねた成果をこの親子運動会に、このように心配された地域もよくなりました。みなさんそれぞれ大変な思いをして、今ここに立っておられる。今日この場に同席できなかった方々にたくさんおられます。みなさんはこの不条理の中に生き残ったことを感謝して、今日1日を楽しんでいただき、精一杯動いていただき、みなさんの元気がこの日の復興につながることを期待されます。最後まで頑張ってください。（一部、録音不鮮明）</p>	<p>昨日までの暑さとは変わり、少し涼しく運動するにはちょうど良いコンディションとなりました。生徒諸君にとって、またご来場の皆様にとっても特別な思いがあったのではないのでしょうか。運動会がNⅡ中学校としての締めくくりの運動会です。生徒諸君は今日までの日々、今日までの熱い思い、それは一人ひとり違いますが、みんなの気持ちを一つにして、この運動会を代々語り継がれるような歴史に残る運動会にしてください。そして、今日の1日は、来年4月からスタートする統合中学校、NM中学校に向けて、みなさん一人ひとりの未来へ進もうとしています。ご来賓の皆様には、お忙しい中、朝早くからお越しいただきまして、誠にありがとうございます。また、地域の皆様には、日々平素、学校を支えていただきまして、ありがとうございます。また、校長先生をはじめとして、諸先生方、職員の皆様には、日頃より子どもたちをご指導いただきありがとうございます。保護者を代表いたしまして心から感謝いたします。会場の皆様、NⅡ、OB・OGの皆様、盛大な応援をよろしく願います。結びに、運動会開催にあたりお手伝いいただいた皆様、ボランティアの皆様、関係各種の皆様にご感謝いたします。さあ生徒諸君のNⅡ魂を見せていただきましょう、検討を祈ります。</p>

表9 PTA 会長と教育長のインタビューの内容

PTA 会長	教育長
<p>まっ本音を言えばですね、NⅡ中学校は、NⅡ中学校として存続をさせたいなという思いはあります。で、色々ちょっと調べてみますとわかりますが、海の側にあつてすごく素晴らしい環境で、勉強させてもらっていた。そして、運動場も広くてということで。今回震災がなければということで、みなさんそういう思いだと思うんですけど、やっぱりその辺、NⅡ中学校で卒業させたいなっていう思いです。もう一つは、やっぱり統廃合に関して期間が短いということがありまして、色んなこう閉校にするにしても色んなことをやりたいなっていう思いはありますけど、ただ時間が限られたものがありましたので、PTAの方では、当初反対というか、それを止めようという気持ちもあったんですけど、ただ教育委員会の方からこういうような、実際の規模で、将来的なことを考えて詳しい話を聞きましたので、そこで切り替えて、そうであればもう次に向けてやろうということで、やりだしまして。ですから、まっ本音を言えば、NⅡ中のままっていうのもありましたけども、子どもたちの将来を考えると、地域の将来のことを考えると、統合はやむを得ないかなって。色んなのがあったんですね、一貫校とか色んなのがあったんですけど、そういうような選択になってまいりました。</p>	<p>こういう状況ですからね。まっ今の中学3年生は、今のNⅡ中の子どもたちは、NⅡの最後の子どもたちとしてね、誇りをもってもらいたいですよね。また、4月になったら、切り替えて、NⅠ中も良い学校ですから両方の良さをプラスに、やっぱりね、変えるような方向でね、頑張ってもらいたいなと思っています。</p>

引いた。

2011年度における各挨拶には、6.1の生徒代表の挨拶と同様に「未来志向」という共通性がある。具体的には、教育長は「今回の大震災の復興は、かなうかどうかみなさん子どもたちの元気にかかっている」という言葉を引用し、PTA会長も「みなさんの元気がこのH(市)の復興につながることを期待されます」と述べている。なお、そのような傾向は、翌年度においても同様である¹⁶。教育長の挨拶では、「学校の復興、復旧・復興は、地域の希望でございます。そして、その希望の姿を現すのが皆様の姿勢です」と、NⅡ中の生徒たちを、将来における復興の担い手として位置づけている。PTA会長も、「今日の1日は、来年4月からスタートする統合中学校、NM中学校に向けて、みなさん一人ひとりの未来へ進もうとしています」と、今回の運動会を未来へのスタートとして位置づけていた。

そして、両者共に、学校の統廃合を受け入れる「意志」を示している。教育長は「NⅡ中学校としての最後の運動会を立派にやり遂げようとする、その気持ちが伝わってまいりました」と述べ、PTA会長も「運動会がNⅡ中学校としての締めくくりの運動会です」と述べており、それぞれ統廃合を受け入れる前提で挨拶の言葉を述べていた。このような姿勢は、5.4で検討した担当教師、及び、後述する教師集団の「意志」と共通している。しかし、6.2で述べたように、生徒たちは

統廃合を受け入れる「意志」にまで到達しておらず、両者の間には隔たりがあった。

7.2 PTA 会長の葛藤

7.1で見たように、地域住民を代表する2人の挨拶は、「未来志向」「統廃合を受け入れる」という共通性があったが、PTA会長の挨拶の背景には統廃合をめぐる葛藤があった。PTA会長のインタビューの内容を抜粋したのが表9(左)である。そこでは、「本音を言えばですね、NⅡ中学校は、NⅡ中学校として存続をさせたいな、という思いはあります。…略…統廃合に関して期間が短いということがありまして、…略…閉校にするにしても色んなことをやりたいなっていう思いはありますけど、ただ時間が限られたものがありましたので、PTAの方では、当初反対というか、それを止めようという気持ちもあったんですけど…」と述べるように、当初PTA会長は統廃合に反対し、NⅡ中を存続させたいと考えていた。結果として、統廃合をやむを得ないと認めてはいるが、実際のところは来年度(2013年度)から統廃合することが唐突に決まり、その準備期間も短いということで「戸惑い」を感じている。このことからPTA会長が挨拶の冒頭で述べた「来場の皆様には特別な思いがあったのではないのでしょうか」(表8)という言葉の背景には、統廃合をめぐる様々な「戸惑い」が含まれていたと捉える必要があるだろう。

16 2012年度の教育長ならびにPTA会長は、それぞれ新しい方が就任されている。

一方で、教育長の統廃合についてのインタビューでは、統廃合は「致し方ない」、そして「4月になったら、切り替えて、N I 中学校も良い学校ですから両方の良さをプラスにやっぱりね、変えるような方向でね、頑張ってもらいたいなと思っています」と述べている。つまり、教育長はインタビューにおいても、挨拶と同様の「意志」を語っており、そこにはPTA会長のような葛藤が見られなかった。両者の挨拶では「未来志向」「統廃合を受け入れる」という共通点があったが、実際の心境には、このような違いがあったことを留意しておく必要があるだろう。

7.3 地域住民の「意志」

最後に、教育長やPTA会長の背後にいた、地域住民の「意志」を確認しておこう。表10は、地域住民の統廃合に関わる「意志」とその理由をまとめたものである。ここで示されているように、地域住民の「意志」はN II中の統廃合を前向きに賛成する立場と、仕方がないという立場に分けることができる。

前向きな「意志」を示す立場の理由に注目すると、①現状の学習環境の改善が図れること、②統合に伴い生徒数が増加し、部活動等の種目も増え、教育効果が上がること、③新しいものが生まれる（期待感がある）といったことであった。一方、インタビューをした半数以上の地域住民が「仕方がない」との「意志」を示していた。その理由は、①被害の大きさ（をふまえれば仕方がない）②生徒数の減少、③本音は反対だから

といった内容に分けることができる。なお③の立場をとるのはPTA役員であったが、PTA会長と同様に、「統廃合に向けて準備期間が短い」ことを指摘している。実際にPTA会長も、「閉校にするにしても色んなことをやりたいなって思いはありますけど、ただ時間が限られたものがありました」(表9)と述べていた。生徒たち、学校、地域をつなぐPTAの立場から、地域住民と学校が連携した閉校行事についてじっくりと考えたかったが、統廃合に向けたスケジュールがそれを許さなかったのである。

このように地域住民の間では、様々な「意志」が錯綜していたが、概ね「統廃合を受け入れる」という点では一致していた。そのため、「親子大運動会」における教育長やPTA会長の挨拶では、そのような「意志」が代弁されたと言えよう。しかし、その背景に、性急な統廃合に対する父母の戸惑いがあったことは、見過ごすことのできない事実である。

8. 校長が語った「意志」と教師集団で共有されていた「意志」

8.1 校長の挨拶

「親子大運動会」において、教師集団の代表が「意志」を語る場に、校長の挨拶がある。昨年度と今年度の挨拶を比較すると、それぞれ①支援や来場者への感謝、②「親子大運動会」の歴史、③テーマの説明、④生徒たちの頑張り、⑤プログラムの紹介、⑥保護者・地域

表10 地域住民の統廃合に関わる「意志」とその理由

統廃合について	理由	対象者
前向きに賛成	生徒数の減少。将来に向けて夢を託す。	教育委員会教育委員長
	大規模校の方が教育効果がある。部活の選択肢が広がる。	O町区長
	部活の選択肢が広がる。	参観者・60代男性
	未来志向。	M町区長
	新しいものが生まれる。	M小学校校長
仕方がない	被害の大きさ。未来志向で。	市議会議員 A 氏
	被害の大きさ。	市議会議員 O 氏
	被害の大きさ。悔しい。寂しい。	市民センター所長 (ON 地区)
	被害の大きさ (元の場所では開校できない)。	K町区長
	被害の大きさ。生徒数の減少。寂しい。	N S 町区長
	被害の大きさ。生徒数の減少。	参観者・N II 中学校 2 回生
	生徒数の減少、ある程度の規模が必要。	N 小学校校長
	生徒数の減少。部活の選択肢が広がる。将来的には良い。	市民センター所長 (N 地区)
	生徒数の減少。復興計画が一番大事。	T 町区長
	本音は反対。唐突、戸惑い、不安。	PTA 役員

表11 校長挨拶の比較

	2011年度	2012年度
校長の挨拶	<p>…略…しかし、たくさんの、暖かなご支援をいただきながら、少しずつ元気を取り戻しております(①)。そして、本日…略…ご来賓の方々、そして保護者の方々にご参集いただきまして、このように、盛大に親子大運動会ができることに、心から感謝を申し上げます(①)。…略…本校の親子運動会は実は平成5年度に体育祭から名称を改めまして、保護者の方、地域の方とつくる運動会として、本校では大変大切にしてきた行事で、今年で19回目を迎えます(②)。この運動会を完全復活したいという思いで私たちは頑張ってきました(④)。特に、今年は地域の方々の再開の場としたい。そして、できれば地域復興の第一歩を期すような運動会にしたい、こういう思いで取り組んでまいりました(③)。運動会のテーマは「Let's run～走れば見える復興というゴール～」でございます(③)。子どもたちは夏休みを返上して、実行委員会や応援リーダーの活動に取り組んでまいりました(④)。そしてその目標達成にむけて精一杯頑張っております(④)。…略…それから、本校の伝統的な出し物…中略…E(本校独自のダンス)。…略…それから平成5年度から踊っております女子生徒による民謡踊りでございます(⑤)。ぜひ、最後は地域の方も入っていただいて、踊っていただきたいと思っております(⑥)。…略…いよいよ今から運動会が始まります。NⅡ中の伝統を引き継ぎ、躍動感に満ちた感動ある運動会にしたいと思っております(⑦)。(以下、省略)</p>	<p>…略…たくさんの方々の暖かなご支援を受けて、子どもたちは元気に明るく、ここまで頑張りました(①、④)。本日…略…ご来賓の方々、保護者の方々にご参集いただき、平成24年度本校最後の親子大運動会が開催できますこと、心より厚く御礼を申し上げます(①)。本校の運動会は平成5年に体育祭から名前を変え、学校・保護者の皆さん、そして地域とつくりあげる運動会、伝統的な運動会として今まで大切に実施してまいりました(②)。本年度で、20回を迎えます(②)。しかし、今回の震災により…略…NⅡ中は今年度3月31日をもって閉校いたします(⑧)。そして4月からはNⅠ中と統合し、NM中学校として新しいスタートをきることにになりました(⑧)。55年の学び舎の歴史を失う私たち母校への思いをですね(⑧)、今日ご参加いただきましたみなさまの思いを同じにして、思い出に残る、感動的な運動会にしたいと思っております(⑦)。どうぞよろしくお願いたします。</p> <p>本日の運動会のテーマは先ほど実行委員長も申し上げました「5347人の軌跡。生徒は地域のために、地域は未来のために」でございます(③)。本校の卒業生5347人の思いを私たちがしっかり受け止め、地域復興への願いを結集したいと思います(③)。そして未来を切り開く力をつけたい。そういう思いを込めて子どもたちがつくってくれたテーマでございます(③)。…略…子どもたちは夏休み中、暑い中、一生懸命、企画・準備に取り組んできました(④)。練習時間はたった4日間でした。…略…本年度の出し物の中で2つだけご紹介いたします(⑤)。…略…ぜひお楽しみにしてください。そして最後はみんなが一つになって踊れたら、とても良い思い出になるんじゃないかなと思っております(⑥)。よろしく保護者のみなさま、地域の方々もご参加していただきたいと思っております(⑥)。(以下、省略)</p>

※表中の番号は、①支援や来場者への感謝、②「親子大運動会」の歴史、③テーマの説明、④生徒たちの頑張り、⑤プログラムの紹介、⑥保護者・地域住民へのプログラム参加の呼びかけ、⑦開催への決意、⑧学校の統廃合に関する内容を示している。

住民へのプログラム参加の呼びかけ、⑦開催への決意で構成されている。そして、2012年度においては、⑧学校の統廃合に関する内容が加えられている(表11)。

これまでの考察との関連で注目されるのは、まず、テーマの説明が行われ、担当教師の「ねらい」が代弁されていることである。2011年度の挨拶では、「地域の方々の再開の場としたい」「地域復興の第一歩を期すような運動会にしたい」と述べ、同様に、2012年度の挨拶でも「本校の卒業生5347人の思いを私たちがしっかり受け止め、地域復興への願いを結集したいと思います」と述べており、それらは前掲の表3で示した、担当教師の設定した「ねらい」と合致している。さらに、生徒代表の挨拶でもテーマについてふれていることから(6.1)、校長の挨拶で語られた「意志」は、それとも共通性をもつことになる。

また、校長は、2012年度において学校の統廃合について語っているが、それは「私たちの大切な古里、かけがえのないもの、そして学び舎を失ったNⅡ中学校

でございます」「55年の学び舎の歴史を失う私たち母校への思い」というように、「過去や学校への郷愁」を含む形で述べられていた。この点についても、生徒代表による挨拶との間に共通性が見いだせよう。

しかし、両者の間には、相容れない点も見られる。校長は、「NM中学校として新しいスタートを切ることになりました」と統廃合を受け入れる「意志」を示しているが、生徒たちはそのような「意志」にまでは至っておらず(6.3)、「悲しさ」「悔しさ」という言葉で心境を表現していた。むしろ、校長の挨拶に見られる、統廃合を受け入れる姿勢は、7.1で考察した地域を代表する立場の「意志」と共通するものであった。

8.2 教師集団の「意志」

最後に、校長の背後にいた教師集団の「意志」を確認しておきたい。本研究では、その傾向を知るために、全教師13名¹⁷⁾のうち12名にインタビューを実施した。

結論から述べれば、彼らもまた、統廃合は「やむを

17 この数は、校長、担当教師、ALT、用務員、事務員、スクールカウンセラーを除いた数である。

表12 教師集団の統廃合に関わる「意志」とその理由

統廃合について	教師	理由
①前向きに捉え始める	F	少ない生徒数・被災している環境（学習環境）を変えるには良い。親子大運動会の形式を継続できるのか不安。
	H	人数の増加によって運動会などの行事が盛り上がる。キャラクターが違う生徒たちなので交流の仕方が不安。
	I	部活動とか生徒の活動を考えると人数は必要。生徒たちがたくましく育つにはある程度の人数が必要。少ない生徒数だと人間関係が固定される。
②仕方がないが本心は反対	B	教師、生徒の声を聞いていない。
	A	人数が少ないと意識が高まらない。地区に学校がないことは問題（少規模でも問題ない）。「親子大運動会」の形式を継続できるのか不安。
	K	市内に学校が4つある方が自然（小規模でも問題はない）。小さい学校が悪いという理由はない。I中とII中は文化圏が違う。
③明確な賛否を示さずに受け入れる	D	少ない生徒数、被災している環境（学習環境）を変えるには仕方がない。急な決定、クラス替えに心配する親の声もある。
	E	少ない生徒数、被災している環境（学習環境）を変えるには仕方がない。
	G	被災している環境（学習環境）を変えるには仕方がない。
	J	地域性が強いN I中とN II中統廃合後の運動会が心配。
	L	どこであろうと子どもたちのためにベストを尽くして働くだけである。
	C	戻る学校がないのだし、教員の立場では反対はない。

得ない」という「意志」で一致していた。しかし、その理由については様々であり（表12）、まず①統廃合を前向きに捉え始めている立場がある。その理由に関しては、少人数という現状や、学習環境を変えるためには良い、生徒がたくましく育つには一定の生徒数が必要である、あるいは、部活動や運動会等の教育活動を充実させるには、一定の生徒数が必要といった意見が挙げられている。次に、②統廃合は仕方がないが、本心は反対であるという立場がある。その理由に関しては、N I中とN II中は文化圏が違う、小さい学校が悪い訳ではない、教師や生徒の意見を聞いていないということが挙げられている。そして、最後に、③明確に賛否を示さずに、統廃合を受け入れる立場がある。その理由に関しては、少人数や現状の学習環境を変えるには仕方がない、前の学校に戻るのには不可能だから仕方がない、教師はどこであろうとベストをつくすのが使命といったことが挙げられている。

賛成する立場や、明確な賛否を示さない立場においては、共通して「少人数や現状の学習環境を変えるには仕方がない」という、統廃合を受け入れる理由が述べられているが、その一方で反対する立場に通じる、統廃合への不安も含まれていた。このことから、教師集団においても様々な「意志」の葛藤があったことがうかがえる。しかし、このような相違を見せつつも、

彼らは「統廃合はやむを得ない」という姿勢では一致しており、8.1で検討した校長による挨拶は、そのような「意志」を反映したものとして捉える必要がある。

9. 総括

9.1 「親子大運動会」における「意志」の諸相

ここでは、図1を用いて、これまでの考察を整理しておきたい。まず、図1の概略であるが、歪な六角形の枠は「意志表明の場」としての「親子大運動会」を示しており、そこで表明された生徒、教師集団、地域住民の代表による「意志」は、枠内の円で表現している。それぞれの「意志」の内容は、円内において要点のみを記した。そして、円が重なっている部分は、各立場で共通する「意志」があったことを示している。なお、六角形の枠外にある円では、各立場の代表者の背後にいた、その他大勢の「意志」を示している。そして、枠内外を結ぶ実線及び点線の矢印があるが、それらは「意志」の語られ方の相違を示している。枠外で共有されていた「意志」が、代表者によって直接的に語られた場合には実線、間接的に語られた、あるいは「意志」の一端が語られた場合には点線で示した。

さて、まず「親子大運動会」という場を規定する意味を持つ、実行委員会の「意志」に注目する。それは、

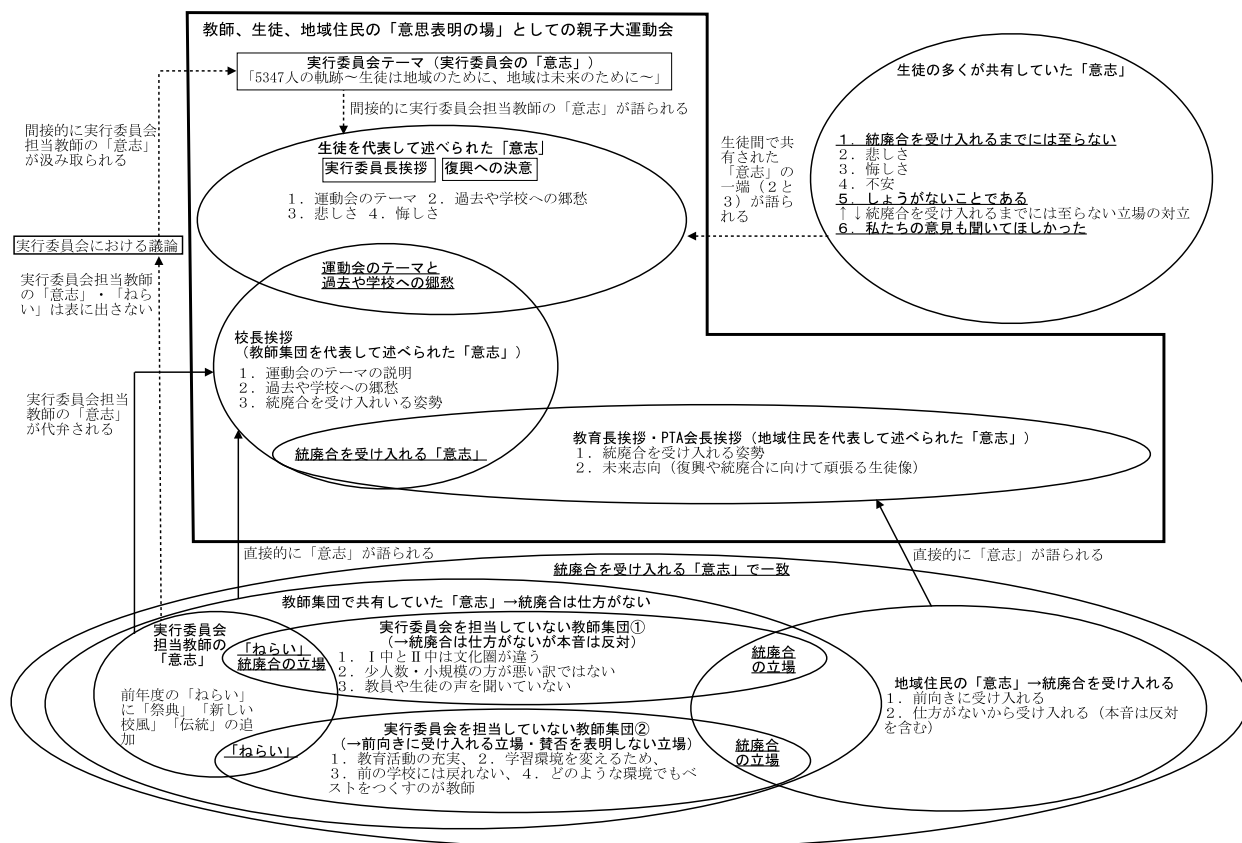


図1 2012年度「親子大運動会」における統廃合をめぐる「意志」の諸相

実行委員会が設定したテーマの中で表現され、それに基づいて開会式、閉会式、及び、競技・演技種目の内容が決められることは5.1において解説した。このテーマ設定の背景には、担当教師の「意志」によって設けられた教育目標、すなわち「ねらい」に基づく指導があった(5.2)。また、その「ねらい」は、職員会議で報告され、教師集団に受け入れられていた。そのため、図の左下の担当教師の「意志」と、その右隣にある実行委員を担当していない教師の「意志」は、それぞれ運動会の「ねらい」という面で重なることになる。

一方で、生徒たちに対しては、「ねらい」を直接的に明示するのではなく、いくつかの指導方法を駆使しながら、生徒たち自身の言葉で語らせていた(5.3)。このプロセスを経て、担当教師の設定した「ねらい」は、生徒たちの言葉で間接的に実行委員会のテーマで語られることになる。そのため、図1の左下にある担当教師の「意志」と、6角形の枠内にある実行委員会のテーマ(実行委員会の「意志」)は点線で結ばれている。

なお、2012年度における担当教師の「ねらい」は、統廃合を受け入れる前提で設定されていたが、「親子大

運動会」が開催される以前には、反対する立場をとっていた(5.4)。その「意志」は、教師集団の一部で共有されていた「統廃合は仕方ないが本音は反対である」という「意志」(8.2)と重なるものであり、図1でもそのように表現している。一方で、教師集団の中には、前向きに統廃合を捉える集団や、明確な立場を示さずに統廃合を受け入れる集団もいたが(8.2)、それぞれの「意志」は「統廃合は仕方ない」という点では一致しているため、教師集団内の各立場は同じ円の中で括られている。

そして、このような教師集団の「統廃合は仕方ない」という「意志」を受けて、「親子大運動会」の校長の挨拶では、統廃合が「新しいスタート」と語られていた。このような実態を示すために、教師集団の「意志」と校長の挨拶は実線で結ばれている。

また、校長の挨拶では、運動会のテーマの説明や「過去や学校への郷愁」が語られていた。それは、担当教師の「意志」を代弁するものであるため、両者を実線で結んでいる。同時に、それらは生徒代表の挨拶でも語られていたため、その点で両者の円は重なる事にな

る(8.1)。

次に、地域住民代表の「意志」であるが、教育長やPTA会長の挨拶で語られた言葉には、共通して統廃合を受け入れる姿勢が見られた(7.1)。このことから、両者は一つの円で括られることになる。同時に、その「意志」は、先ほど述べたように、校長の挨拶で語られた「意志」とも共通するため、枠内で二つの円が重なっている。しかし、地域住民を代表する立場の「意志」には、校長の挨拶に見られた、運動会のテーマに込められた「意志」や、「過去や学校への郷愁」が表明されていないため、両者の円が完全に重なることはない。

なお、教育長やPTA会長の挨拶の背後にあった、その他大勢の「意志」に注目すると、様々な葛藤があったものの、統廃合を受け入れる姿勢では一致していた。すなわち、地域住民を代表して語られた挨拶は、これらの「意志」を代弁したものと考えられるため、両者を実線で結んでいる。

最後に、生徒の「意志」であるが、それが「親子大運動会」において述べられた場として、実行委員長挨拶と「復興への決意」に注目した。ここで語られた内容の特徴は、①運動会のテーマについて説明、②過去や学校への郷愁、③悲しさ、④悔しさであった(6.1)。①と②については、先に触れた担当教師の「ねらい」と共通する内容であり、それが間接的に表現された一面がある。このことを示すために、テーマと生徒代表の「意志」を点線で結んでいる。同時に、この①と②は、担当教師の「ねらい」を代弁した校長の挨拶・「意志」と重なることになる。しかし、校長の挨拶では、生徒と同様の意味での③悲しさ、④悔しさという表現が見られないため、その面では重ならない。

次に、生徒を代表して述べられた「意志」と、その背後にいた全校生徒の「意志」の関係であるが、質問紙調査の結果、生徒の多くは統廃合に「賛成とも反対とも言えない」及び「反対」の立場であった。また、現状の心境に関しても、「悲しい」「悔しい」といった否定的な言葉を選択するものが多かった。すなわち、生徒たちは、学校の統廃合を受け入れるまでには至っていなかったと言える。生徒代表の挨拶で語られた「過去や学校への郷愁」「悲しい」「悔しい」という「意志」は、このような心境を代弁するものであったと捉えることができる。しかし、多くの生徒たちに共有されていた、統廃合は「しょうがない」ことだけ「受け入

れるまでには至っていない」、「私たちの意見を聞いていないから反対」といった「意志」は、生徒代表の挨拶では十分に語られなかった(6.2)。そのため、生徒の「意志」をめぐる枠内外の円は、点線で結ばれることになる。

9.2 「連帯と団結による意志表明」の実際

1で述べたように、本研究では、運動会を教師、生徒、地域住民の「連帯と団結による意志表明」の場として捉えている。以下では、「親子大運動会」がそのような場として成立していたのかを検討する。

「親子大運動会」で語られた、各立場の代表による「意志」は緩やかに繋がっていた。教師集団を代表した校長の挨拶では、統廃合を受け入れる「意志」が含まれており、その点で地域住民代表の「意志」との一致が見られた。また同様に、校長の挨拶では「過去や学校への郷愁」及び、運動会のテーマに込められた思いが説明されたことから、その点で生徒の代表によって語られた「意志」との一致が見られた。つまり、校長の挨拶で述べられた「意志」は、生徒と地域住民の「意志」をつなぐ役割を果たしていたと言える。実際に、図1の枠内における校長の挨拶の円を削除して、残りの「意志」を並べてみればわかるように、統廃合という未来に「前向きな生徒像」を述べる地域住民の「意志」と、「悲しさ」「悔しさ」「過去や学校への郷愁」を述べる生徒代表の「意志」は対立してしまう。校長の挨拶で語られた「意志」は、そのような対立を回避する、クッション的な役割を果たしたと言えよう。このような視点で捉えれば、「親子大運動会」において各立場の「意志」は緩やかに繋がっていたと見ることができ、連帯や団結が実現していたかのように見える。

しかし、連帯や団結による(に基づく)「意志」が表明されたとは言い難い。実際に、学校の統廃合に関して、生徒とそれ以外の立場には温度差があった。教師集団や地域住民といった大人は、統廃合を「仕方がない」と受け入れ始めていたが、生徒たちの多くは受け入れるまでには至っていなかったのである。生徒の代表は、統廃合を目前にした現状の心境を「悲しい」「悔しい」という、生徒間で共有されていた「意志」の一端で表現したが、校長や地域住民を代表する挨拶において、そのような「意志」が共有されることはなかった。このような実態分析に基づき、本研究では「親子

大運動会」が「連帯と団結による意志表明」の場には「ならなかった」と結論づける。

9.3 「連帯と団結による意志表明」に向けた課題

1で述べたように、運動会は学校行事である。一般的に、行事、儀式、祭りなどは「ハレ」の舞台とされ、非日常的な空間として理解されている。それに対応するのが「ケ」であり、それは日常的な生活を意味する。「ハレ」の舞台では、「ケ」とは異なる振る舞いや言葉遣いが求められる。生徒の代表は「悲しさ」「悔しさ」という日常生活の（「ケ」の世界における）本音の一端を語ったが、それは「ハレ」の舞台にはふさわしくなかったのかもしれない。

だが、教育学の立場から見れば、運動会は教科外活動であり、そこで行われるのは「生活」指導である。そして、その中でも学校行事は「意志」を表明する場として位置づけられている。つまり、日常生活を基盤にして行われるのが教科外活動の特質であり、そうであれば日常生活の「意志」こそが、学校行事で最も尊重されなければならない。このような前提に立てば、生徒に非があるのではなく、むしろ生徒の「意志」を把握しきれなかった大人に課題が残されているように思われる。

実際に、震災後の教育現場には、そのような生徒の「意志」を確認する余裕がなかった。筆者らのインタビューによれば、学校の統廃合に関して、生徒たちにはNⅡ中の校長から「統廃合の予定である」との説明がなされただけであり、生徒たちの「意志」は確認されていない。しかし、大人たちにはそのような「意志」確認の場が設けられており、地域住民には説明会が開催され、担当教師もまた、その場にオブザーバーとして参加していた(5.4)。確かに、地域住民は、2でも述べたように、居住地を変更している人が多かったため、説明会への参加率は低かったが、それでも教育行政関係者と議論をする場が設けられていたことは事実である。大人は、この場をくぐることで、内心には様々な「意志」の葛藤を抱えながらも、学校の統廃合を「仕方がない」と受け入れ始めたのである。子どもにはそのような場が設けられていないのであり、このような状況で「連帯と団結による意志表明」が実現するはずもなかった。

子どもの生存、発達、保護、参加を実現・確保する

ために設けられた国際条約に「子どもの権利条約」がある。日本もそれを批准しているが、その第3条では、「子どもにかかわるすべての活動において、…略…子どもの最善の利益が第一時的に考慮される」と記されている。さらに、第12条では「締約国は、自己の見解をまとめる力のある子どもに対して、その子どもに影響を与えるすべての事柄について自由に自己の見解を表明する権利を保障する。その際、子どもの見解が、その年齢および成熟に従い、正当に重視される」とあり、いわゆる「子どもの意見表明権」が保障されている(解説教育六法編集委員会, 2011)。つまり、この条約の精神をふまえれば、「『子ども最善の利益』は誰が判断するのかを問うとき、おとな(親・教師)の適切なアドバイスは不可欠だが、子ども自身が自分の興味・関心、利益にかなうものとして判断しているかどうかの意見を聞かずして、これがあなたの最善の利益だと押しつけてはならない」(堀尾, 1995)ののだと言えよう。本調査においては、27.3%の生徒が「私たちの意見も聞いて欲しかった」と述べているが、このような状況で統廃合を進めることは、子どもの権利条約の精神から逸脱していると同時に、子どもの成長、発達に不可欠な意見表明の場が確保されなかったことを意味している。

確かに、被災地において、生活環境や教育環境の改善は喫緊の課題である。しかし、将来、この地域を背負う可能性がある、生徒たちの「意志」を置き去りにした復興や環境の改善に、どれだけの意味があるのだろうか。それは、運動会の実践においても無関係ではない。本調査で明らかにしたように、日常生活における生徒の「意志」が尊重されなければ、運動会は「連帯と団結の意志表明の場」に、なり得ないからである。

引用・参考文献及びURL

- 浅野あや (1998) 阪神・淡路大震災(平成7年1月17日)を乗り越えて——さまざまな困難のなかでの体育授業——。神戸市中学校保健体育科指導のてびき——一人一人を伸ばす選択制授業。神戸市教育委員会体育保健課: 49-52。
- 飯田節子 (2004) 日本教育方法学会 現代教育方法事典。図書文化社: 451。
- 解説教育六法編集委員会 (2011) 解説教育六法2011 平成23年版。三省堂: 118-124。

東日本大震災後の運動会

- 神谷拓 (2012) 子どもの生きる見通しと体育・スポーツ. たのしい体育・スポーツ (258) : 53-59.
- 神谷拓・伊藤嘉人 (2012) 鳴瀬第二中学校における運動会と制野俊弘の「地力」の関係. 運動文化研究 (29) : 67-71.
- 岸本肇 (1997) 震災2周年とスポーツ・体育・子どもの健康. 体育科教育45 (6) : 70-71.
- 岸本肇 (1999) 震災状況下における体育、運動部と子どもの身体. 日本体育学会大会号 (50) : 785.
- 岸本肇 (2000) 阪神・淡路大震災の被災地における学校体育と子どもの健康. 兵庫体育・スポーツ科学学会編 体育・スポーツ科学 (9) : 15-23.
- 岸本肇 (2012) 東日本大震災を教訓とする体育の防災教育論. 共栄大学研究論集 (10) : 205-218.
- 久保健 (1988) 運動会. 青木一他編 現代教育学事典. 労働旬報社 : 31-32.
- 佐藤郁哉 (2008) QDA ソフトを活用する 実践 質的データ分析入門. 新曜社.
- 柴田義松 (2000) 教育課程 カリキュラム入門. 有斐閣 : 181.
- 城丸章夫 (1992) 城丸章夫著作集 第4巻 生活指導と自治活動. 青木書店 : 48-50.
- 制野俊弘 (2011) [特別連載] 被災地の子どもに向き合う体育実践. 子ども・学校・地域の復興と運動会. 体育科教育 59 (13)-60 (10).
- 制野俊弘 (2012a) 学校を人間と地域の再生の場に——狼煙とともに——. たのしい体育・スポーツ (258) : 46-52.
- 制野俊弘 (2012b) 学校を人間と地域の再生の場に——震災を通して見える「命」「仲間」「学び」——. 運動文化研究 (29) : 59-66.
- 玉腰和典・丸山真司 (2012) 震災を乗り越えた力. 運動文化研究 (29) : 54-58.
- 千葉保夫 (2012) 運動会に見る被災地住民と学校. センターつうしん. みやぎ教育文化センター (65) : 10-13.
- 仲島正教 (1995) 阪神大震災で被災した学校での体育授業——西宮からの報告——. 体育科教育43 (10) : 69-71.
- 鳴瀬町誌編集委員会 (1973) 鳴瀬町誌. 鳴瀬町教育委員会 : 793-812, 840-847.
- 鳴瀬町誌編集委員会 (1985) 鳴瀬町誌 (増補改訂版). 鳴瀬町教育委員会 : 969, 982-999.
- 東松島市ホームページ、震災による被害状況 [2012年9月3日現在] http://www.city.higashimatsushima.miyagi.jp/cnt/saigai_20110311/index.html (最終アクセス2012年9月26日).
- 堀尾輝久 (1995) 「子どもの権利」を支える子ども観. 教育学研究62 (3) : 8.
- 宮城県ホームページ、市区町村別推計人口及び世帯数 [2011年3月1日現在] http://www.pref.miyagi.jp/toukei/toukeidata/zinkou/jinkou/suikai_top/230301suikai.pdf (最終アクセス2012年9月26日).
- 宮城県ホームページ、市町村別人口増減の推移 [2012年8月1日現在] http://www.pref.miyagi.jp/toukei/toukeidata/zinkou/jinkou/suikai_top/240801suikai_merged.pdf (最終アクセス2012年9月26日).
- 文部科学省 (2008) 中学校学習指導要領 : 118-121.
- 吉本均 (1974) 学習集団双書・訓育的教授の理論. 明治図書 : 12.
- 渡辺孝之 (2012) 浜市小復興の歩み. 運動文化研究 29 : 41-53.

(平成24年9月28日受理)

運動会アンケート

※まず、あなたのことについて、教えてください（以下の項目に○をつけて下さい）

学年：1・2・3 性別：男・女

紅組・白組

地区（A・N・O・M・K・S・SN・T・ST[実際には地区名]）

※次に、以下の質問に答えて下さい（○をつけて下さい）

1. 運動会で、印象に残ったプログラムを選んで下さい（2つ以上に○をつけても良いです）

1. 開会式 2. 騎馬戦 3. 大縄跳び 4. 棒倒し 5. ボール運びリレー 6. 全校男女・綱引き
7. 選抜リレー 8. 地区対抗・綱引き 9. 応援合戦 10. E（この学校に伝わるダンスの名称）
11. 民謡踊り 12. 飴喰いリレー 13. 親子騎馬リレー 14. 全員リレー 15. 閉会式

2. 運動会で、同じクラスの仲間と協力できましたか？（1つに○をつけて下さい）

1. とても協力できた 2. 少し協力できた 3. どちらとも言えない
4. あまり協力できなかった 5. まったく協力できなかった

3. 運動会で、上級生からアドバイスはありましたか？もしくは、下級生に対してアドバイスをしましたか？（1つに○をつけて下さい）

1. アドバイスをもらった（アドバイスをした）
2. アドバイスはなかった（アドバイスをしなかった）

4. 運動会には、誰が来てくれましたか？（2つ以上に○をつけても良いです）

1. 父 2. 母 3. おじいちゃん 4. おばあちゃん 5. 兄弟・姉妹 6. 親戚 7. 友達
8. その他（ ）

5. 運動会から学んだことや、これからの生活にかしたいことを書いて下さい。

{

ご協力いただき、ありがとうございました。

宮城教育大学 神谷拓

※ まず、あなたのことについて、教えてください（下線の部分で当てはまるものに○をつけて下さい）

- ・ 私は、(1・2・3)年生で、性別は(男・女)です。運動会で所属した組は(紅組・白組)です。
- ・ 震災前に住んでいた地区は(A・N・O・M・K・S・SN・T・ST[実際には地区名])です。
- ・ 今は、震災前と(同じ住所・違う住所)から、中学校に通っています。

※次に、以下の質問に答えて下さい（○をつけて下さい）

1. 運動会で、印象に残ったプログラムを選んで下さい（2つ以上に○をつけても良いです）

1. 開会式 2. 騎馬戦 3. 大縄跳び 4. 棒倒し 5. 玉入れ（敬老・来賓種目） 6. いなばのしろうさぎ
7. 全校綱引き 8. 地区対抗リレー 9. 騎馬リレー 10. むかで 11. 特別企画「絆」（綱あみ） 12. 応援合戦
13. 地区対抗綱引き 14. E（この学校に伝わるダンスの名称） 15. 民謡踊り 16. オールメンバーリレー
17. 閉会式

2. 運動会で、同じクラスの仲間と協力できましたか？（1つに○をつけて下さい）

1. とても協力できた 2. 少し協力できた 3. どちらとも言えない
4. あまり協力できなかった 5. まったく協力できなかった

3. 運動会で、上級生からアドバイスはありましたか？もしくは、下級生に対してアドバイスをしましたか？（1つに○をつけて下さい）

1. アドバイスをもらった（アドバイスをした） 2. アドバイスはなかった（アドバイスをしなかった）

4. 今回の運動会が「地域の復興」につながったと思いますか？（1つに○をつけて下さい）

1. 「復興につながった」と思う 2. どちらとも言えない（わからない） 3. 「復興につながった」とは思わない

5. 来年度、I中とII中は統合（統廃合）される予定です。あなたの立場を以下から選んで下さい（1つに○をつけて下さい）。

1. 統合（統廃合）に賛成である 2. 統合（統廃合）に賛成とも反対とも言えない 3. 統合（統廃合）に反対である

6. I中とII中の統合（統廃合）について、あなたの気持ちを以下から選んで下さい（2つ以上に○をつけても良いです）

1. 楽しみである 2. 不安である 3. しょうがない事だと思う 4. 私たちの意見を聞いてほしかった 5. 嬉しい
6. くやしい 7. 悲しい

7. 運動会で学んだことや、学校の統合（統廃合）について、あなたの考えを自由に書いて下さい。

【	運動会で学んだこと	学校の統合（統廃合）について
		：
】		：

ご協力いただき、ありがとうございました